

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県 茨城県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	水海道市立大生小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	11
児童数	27	28	25	30	30	25	4	169	

実践研究の概要

1 主題(テーマ)

個に応じた指導による確かな学力の定着を図る指導の在り方
- 国語科・算数科の指導体制・指導方法の工夫を通して -

2 内容と方法

(1) 実施学年・教科(選択した理由)

2・3・6年生算数(子供の理解度に差が出やすい教科であるため)
1・4・5年生国語(個に応じた指導の充実を図りにくい教科であるため)

(2) 年次計画

平成14年度

テーマ

「個に応じた指導による確かな学力の定着を図る指導の在り方」

- 国語科・算数科の指導方法・形態の工夫を通して -

仮説

TTや少数指導の形態や指導方法を工夫して、一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を実施していけば、確かな学力の定着を図ることができるであろう。

個々の児童の学習の到達度や、その伸長状況を具体的に評価できるような評価規準を工夫改善すれば、一人一人の個性等に応じて子どもの力をより伸ばすことができるであろう。

研究内容・方法

	月	日	曜	主 な 内 容
	平成14年度	4	8	月
5		9 20	木 月	・学力向上フロンティア事業の研修計画と組織作り ・指導方法等の研修と共通理解
6		6 13 20	木 木 木	・指導案検討会(市指導室) ・授業研究会授業準備(研究部ごと) ・授業研究会(県西教育事務所・市指導室要請訪問)
7		1 5 8 22 24 26	月 金 月 水 金	・研修のまとめ ・県西教育事務所・市指導室計画訪問指導 ・1学期の反省と2学期の計画 ・研究組織の確認, 評価規準の作成・備品整理 ・評価規準及び補助簿の作成, 評価規準及び指導案の形式についての研修(市指導室中山先生講師) ・評価規準の作成
8		6 8 21	火 木 水	・研究部ごとの研修 ・評価規準の作成, 学習指導案の作成 ・評価規準と指導案の確認(市指導室中山先生講師)
9		11 19 26	水 木 木	・人権教育計画訪問 ・指導方法と指導形態・評価の研修 ・指導案の検討会
10		3 18 31	木 金 木	・指導案の検討会(市指導室) ・授業研究会(県西教育事務所・市指導室要請訪問) ・授業の分析と反省
11		7 12 14	木 火 木	・授業研究会のまとめ ・学校体育・学校安全・学校給食計画訪問 ・指導方法・指導過程の研修

	25 29	月 金	・指導内容の精選と評価の研究 ・生徒指導集合指導
12	12 16	木 月	・2学期の研修のまとめ ・反省と3学期の計画
1	16 29	木 水	・指導案検討会(市指導室) ・授業研究会(県西教育事務所・市指導室要請訪問)
2	20	木	・授業研究会の反省とまとめ
3	3 10	月 月	・研修の反省とまとめ ・次年度の計画

平成15年度

テーマ

「個に応じた指導による確かな学力の定着を図る指導の在り方」

- 国語科・算数科の指導体制・指導方法の工夫を通して -

仮説

TTや少人数指導の形態や指導方法を工夫して、一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を実施していけば、確かな学力の定着を図ることができるであろう。個々の児童の学習の到達度や、その伸長状況を具体的に評価できるような評価規準を工夫・改善すれば、児童の意欲を喚起することができるであろう。

研究内容・方法

確かな学力の定着を図るための指導体制の工夫・改善

学習形態・指導形態のとらえ方に関する共通理解

どのように学習させたり、どのように指導するのかを考える時、個への応じ方を習熟度、学習速度、学習スタイル、認知スタイル、興味・関心、生活経験等によって学習形態・指導形態を下記のようにとらえた。

ア 学習形態

一斉学習、グループ学習、個別学習、課題別学習、コース別学習、習熟度別学習

イ 指導形態

一斉指導(一人)、TT、少人数指導

TT・少人数指導や一部教科担任制の導入

ア TT担当・TT非常勤講師の活用

国語科 各学年週2時間 算数科 各学年週3時間

イ 教科担任制【音楽・家庭】の導入と担任同士によるTT

国語1年 4年担任(1時間) 算数2年 3, 6年担任(2時間)

国語4年 5年担任(1時間) 算数3年 2年担任(1時間)

国語5年 1年担任(1時間)

個に応じた指導方法の工夫・改善

児童の実態のとらえ方

個別化の視点と分類

指導案の改善・・・大きく変えた点について

ア 指導及び評価計画について

- ・「次」を記入し、学習のねらいによっては、評価をまとめて(観点ごとに)記入できるようにして簡略化を図った。
- ・算数科では、学習のねらいに【活動の基としての基礎・基本】を位置づけ、基礎・基本の定着が図れるようにした。
- ・指導及び学習形態の欄を設け、TTの活用法をより明確にした。
- ・評価について、算数科ではキーワードで、国語科では文章で十分満足できる状況が一目でわかるように表現し、指導と評価の一体化を図った。
- ・「努力を要する児童の状況」から「努力を要する児童への手立て」に変え、個に応じた指導の手立てを明確にした。

イ 本時の学習について

- ・TTや少人数指導を実施した場合は、「指導にあたって」の欄を設け授業者の思いを記入した。
- ・展開では、支援を a に対する支援・c に対する支援の3つで表記し、個別化の視点と分類を生かすようにした。

指導方法の工夫

学びの時間の充実

1・2年生 水曜日の5時間目・・・担任とTT担当, 担任外等

3・4年生 木曜日の6時間目・・・担任とTT担当, 他学年担任等

5・6年生 月曜日の6時間目・・・担任とTT担当, 他学年担任等

個人カルテの活用

平成16年度

テーマ

15年度の反省を基に決定する予定。

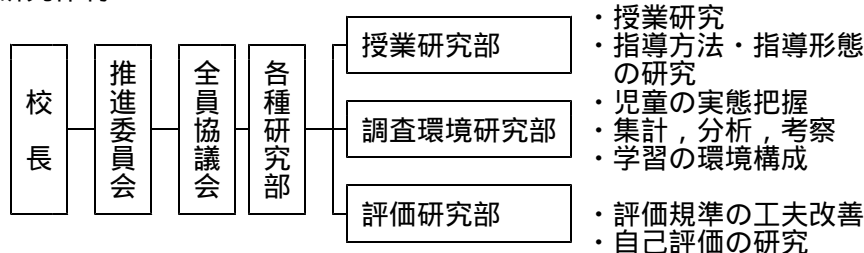
仮説

15年度の反省を基に決定する予定。

研究内容・方法

学期	主 な 内 容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科と算数科の授業研究を通して、理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導などの指導方法の研究及び教材の開発 ・国語科と算数科の授業研究を通して、理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導のための地域ボランティアを活用したT・Tの工夫改善 ・個々の児童の学習の到達度やその伸長状況を具体的に評価し、児童の意欲を喚起するような評価規準の工夫改善
2	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科と算数科の授業研究を通して、理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導などの指導方法の研究及び教材の開発 ・国語科と算数科の授業研究を通して、理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導のための地域ボランティアを活用したT・Tの工夫改善 ・個々の児童の学習の到達度やその伸長状況を具体的に評価し、児童の意欲を喚起するような評価規準の工夫改善 ・研究成果の公開
3	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科と算数科の授業研究を通して、理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導などの指導方法の研究及び教材の開発 ・国語科と算数科の授業研究を通して、理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導のための地域ボランティアを活用したT・Tの工夫改善 ・個々の児童の学習の到達度やその伸長状況を具体的に評価し、児童の意欲を喚起するような評価規準の実施と結果の数値化 ・研究のまとめ

(3) 研究体制



平成15年度の成果及び課題

成果

少人数指導においては、課題別学習やコース別学習、習熟度別学習に意欲的に取り組めるようになった。特に、習熟度別学習では、自分がどのような方法で学習していきたいのかを選択し、分かるようになりたいという意識をもって真剣に取り組む姿が見られた。

個に応じたワークシートを選択する能力が身に付き、自主的に学習を進められるようになった。発展的な問題に挑戦しようとする意欲的に取り組む児童が多くなった。

児童は、T・T担当以外の他学年担任にも慣れ、分からないことや疑問に思ったことは、気軽に質問してくれるようになった。

単元の見直しをすることで、どの単元で・何を指導して・どのような学習をさせたいのか・どのように指導したいのか等の授業構想を考えて指導するように心がけた。また、評価を通じて指導過程や方法の見直しや教材研究の充実等、学力の定着が図れるような効果的な指導を心がけるようになった。

小規模校で有効な学習形態や指導形態について、一人一人が真剣に考えて研究に臨むことができた。

課題

- ・フロンティアティーチャーが中心となり、一単位時間における補充・深化・発展の指導の在り方や個に応じた指導法の工夫・改善と教材の開発を推進する。
- ・確かな学力の定着が図れるように、より充実した学習形態や指導形態の工夫・改善を図る。
- ・指導と評価の一体化をより充実させるための補助簿の改善や個人カルテの有効活用を図る。
- ・学びの時間の学習内容の充実と方法の工夫・改善を図る。
- ・学びの機会の充実を図る家庭学習の在り方を検討する。

学力把握のための学校の取り組みについて

児童の意識調査
保護者の意識調査
学力の伸びに関する分析

児童が身につけた学力の伸びを、昨年度と比較して数値化して評価するようしていきたい。

ア 情意面

児童に実施したアンケートの結果や振り返りカードの記述欄を参考にする。

イ 知識・技能面

単元テスト、茨城県「学力診断のためのテスト」(年1回)、DRTテスト(年1回)、計算・文字力・漢字力テスト、水海道市で作成のテスト(算数)、文科省教育課程実施状況調査テスト等を実施して数値化する。

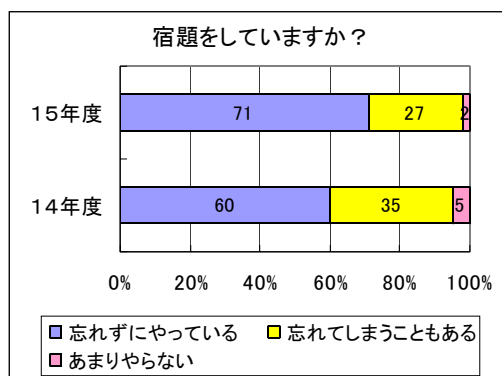
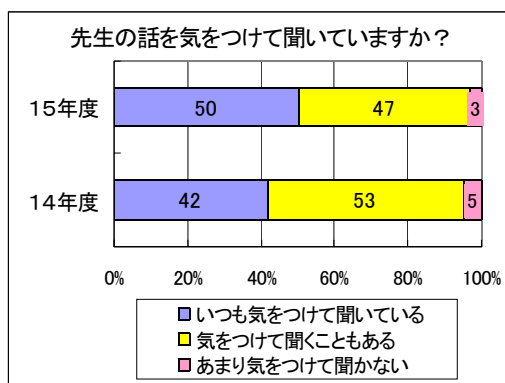
下記は ・ ・ ・ の結果を抜粋したものである。

茨城県「学力診断のためのテスト」結果(平成15年度6年生,平成14年度5年生)

	国語	社会	算数	理科
平成15年度	9.6	10.3	8.5	12.8
平成14年度	2.6	2.5	8.7	8.5
比較	7.0	7.8	-0.2	4.3

* 県平均正答率と本校平均正答率との比較で表した。

児童の意識調査結果(平成15年11月と平成14年11月のアンケートの比較)



フロンティアスクールとしての成果の普及について

- 茨城県県西地区協議会でのフロンティアスクールによる公開授業及び協議

日時 平成15年11月27日(木)

場所 水海道市立大生小学校

対象 県西地区内の小中学校及び保護者や地域住民

日時 平成15年10月31日(金)

場所 水海道市立水海道小学校

対象 県西地区内の小中学校及び保護者や地域住民

日時 平成15年12月3日(水)

場所 水海道市立水海道中学校

対象 県西地区内の小中学校及び保護者や地域住民

- 学力向上フロンティア事業に係わる研修会

日時 平成16年2月9日(月)

場所 水海道市立水海道中学校

対象 水海道市内の小・中学校職員

- 茨城県フロンティアティ・チャ・研修会において、「発展的な学習や補足的な学習のための教材事例集」を作成・・・大生小学校は、国語(1年)の教材を作成

- 現在平成15年度の研究についてのHPを作成中。

~~~~~  
次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】      1 5 年度からの新規校       1 4 年度からの継続校
- 【学校規模】              6 学級以下                       7 ~ 1 2 学級  
                                 1 3 ~ 1 8 学級                      1 9 ~ 2 4 学級  
                                 2 5 学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                      その他
- 【研究教科】               国語                      社会                       算数                      理科  
                                 生活                      音楽                      図画工作                      家庭  
                                 体育                      その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                      無